

## 23. 国有林経営における技術の体系化

### 1. 試験担当者

本場機械化部作業第二研究室長 渡 部 庄三郎 ほか  
〃 〃 作業第一研究室長 辻 隆道 ほか  
〃 経営部経営研究室 須崎 実

### 2. 試験目的

林業における生産要素の個別的な技術の発展進歩はめざましいものがあるが、これら個々技術を体系づけてはじめて総合効果が發揮される。従来から、この面の研究に欠けているので、段階的な作業から機械化または生産合理化の阻害となつている場合がある。現段階における個別技術の進展状況と社会情勢の兼ね合いを見ながら現状に即応した省力技術体系を求め、併せて管理技術の研究が急務である。このため最終生産数量を目標にむき、林業生産としての専門的に分化された基礎ないし個別技術を相互関連の立場からみて、林木生産としての総合的効果を発揮できる手法の確立をはかる。

### 3. 昭和45年度の経過とえられた結果

伐採から再び成林するまでの林木生産過程における個別技術をネットワークにして各工程間の労働性差別の表わし方、および民有林と国有林との生産系列を組立てた。投下労働量は伐出、育林とも国有林が民有林に比し少ないが、経費では高くなっている。

各作業の特性と功程の推定には数量化手法による適用が一応活用できる見通しができた。また年間の作業性計画と人員配置計画についての比例配分法、集材機大きさ別費用割合等工程組立ての必要資料を作成した。

### 4. 昭和46年度の試験計画

伐出関係にあつては、伐採規模、環境条件に応じた伐出方法の選択、育林関係にあつては部分工程を作業仕組みの中にセグメント的に策定できる方法に転じ進めしていく。